

Ⅱ 成果のあった学校の特徴ある取組

1 学力向上総合対策事業における組織的な取組

学力向上総合対策事業の指定校では、組織的に取り組むために様々な取組が行われています。ここでは、「授業モデル」を中心とした取組と「ノート指導」の取組について紹介します。

授業モデルを中心とした取組

この地域の指定校では、小・中学校のすべての教科において、日々の授業で共通して取り組む「授業モデル」を作成し、この授業モデルに、単元や一時間の授業で付けたい力などを明確にした「授業づくりシート」や「通過率30%未満の児童生徒への手立て」を関連付けて取り組んでいます。

(1) 授業モデル

指定校の教員が、どの学年のどの教科においても教科指導と生徒指導の一体的な取組を同じ考え方で指導できるよう、1時間の授業モデルを作成しています。

時間	活動	小学1・2・3・4年生	小学5・6・中学1年生	中学2・3年生	通過率30%未満の児童生徒への手立ての例
授業前	準備	□授業に必要な道具を準備して休憩する。 教科書、ノート、鉛筆、消しゴム、赤鉛筆、青鉛筆、定規、下敷き		教科書、ノート、鉛筆(シャープペンシル)、消しゴム、色ペン、ラインマーカー、定規、下敷き	
		□席について、チャイムを聞く。【レベル3 レベル4をめざそう】			
授業	開始	□大きな声で始まりのあいさつをする。「お願いします」			
	つかむ	□めあて「～が分かる」「～ができる」を確認する。			
	かんがえをもつ	□利き手側にノート、反対側に教科書を置き、正しい姿勢で、丁寧に書く。 □ノートに自分の意見や考えを書く。			② ③
		□今までの学習内容や経験を活かして、自分の考えを持って書く。	□根拠をもとに自分の考えを書く。 □自分の考えを順序立てて書く。	□情報を整理し、根拠づけて自分の考えを書く。 □自分の考えが相手に伝わるように書く。	
	ふかめる	□話し合いをする。【伝え合おう】【結論先行・ナンバリングを使おう】			④ ①
		□自分の思いや考えを伝える。 □友だちの考えを分かろうとする。	□目的に沿って話し合う。 □まとめて、全体へ伝える。	□目的に沿って話し合い、自分の考えを深める。 □キーワードを見つけ出す。 □まとめて、分かりやすく全体へ伝える。	
		□自分の考えをはっきり話す。 □静かに挙手する。指名されたら「はい」と返事をし、起立して発表する。 □主語をつけて最後まで話す。 □聴き手を想定し身体を向けて届く声の大きさで話す。			
		□話し手に身体を向けて、最後まで聴く。【メモをとってみよう】			
	ふりがえる	□大事なことを落とさず聴く。	□自分の考えと比べながら聴く。	□自分の意見との共通点、相違点を考えながら聴く。	
		□キーワードを使ってまとめる。 □学習したことからキーワードを見つけまとめる。			⑤
□めあてを意識して、キーワードをもとにまとめる。					
□めあてに沿った振り返りをする。 【「分かったこと」「分からなかったこと」「次にかんばること」】					
		□学習して分かったことやよく分からなかったことを振り返る。	□学習で理解できたことや疑問点を振り返る。	□学習の成果や課題について整理し学習を振り返る。	
終了	□大きな声で終わりのあいさつをする。「ありがとうございました」				
授業後	片付け	□授業で使った道具を片付け、次の準備をする。			
	家庭学習	□出された宿題は、その日のうちに取り組む。 □決まった時間に、決まった場所で学習を始める。 □1時間以上の学習時間を確保する。 □「自主学习ノート」を活用する。			

(2) 授業づくりシート

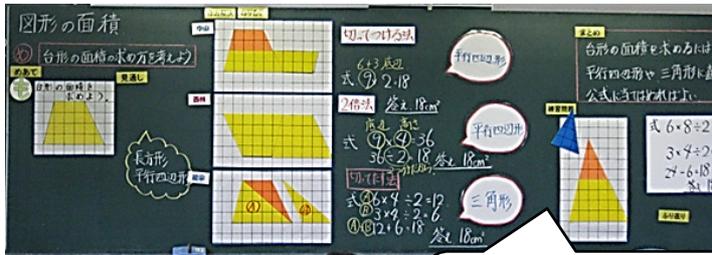
「授業づくりシート」には、単元における「付けたい力」を明確にするとともに、その力を付けるための1時間のごとの『めあて』と『まとめ』を示しています。さらに、「通過率30%未満の児童への手立て」を示し、単元全体を見通した計画になっています。

学年・教科名		第3学年 算数	
単元名		□を使った式	
付けたい力		数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。	
「めあて」 (上段) 「まとめ」 (下段)	1	分からない数の求め方を考えよう。 分からない数を□にして式を立てて考えると、分かりやすい。	
	2	ひかれる数が分からないときの求め方を考えよう。 ひかれる数が分からないときは、数を当てはめたり、たし算をしたりして求めることができる。	
	3	ひく数が分からないときの求め方を考えよう。 ひく数が分からないときは、数を当てはめたり、ひき算をしたりして求めることができる。	
	4	1人分の数が分からない場合の求め方を考えよう。 1人分の数が分からない問題はかけ算の式に当てはめたり、わり算をしたりして求めることができる。	
通過率30%未満の児童への手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の音読を繰り返す。 ・問題文の場面絵を提示したり、操作活動をさせたりして、問題場面を的確に把握できるようにする。 ・問題文の分かっていること、問われていることに線を入れたり、言葉で表現したりし、言葉の式と□を使った式を結び付けながら、数量の関係を捉えられるようにする。 ・テープ図を書く練習をする。 ・問題文をテープ図に表し、数値を入れ、数量関係を捉えさせる。 ・数を易くして、場面を把握をさせ、□の求め方を考えさせる。 ・理解や発表の手立てとなるような掲示物や話型などを用意する。 ・話型を提示し、単元全体で何度も問題の考え方を説明し合う。 ・ペア学習や小集団での説明活動をさせ、理解を深めたり、自信を持って発表できるようにさせたりする。 ・□に当てはまる数の見当をつけたり、テープ図を書いたりする手立てになるようなヒントカードを活用する。 	

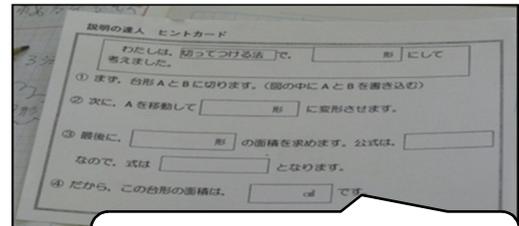
(3) 授業モデルにおける「通過率30%未満の児童生徒への手立て」の具体例

作成した「授業モデル」のそれぞれの活動において、通過率30%未満の児童生徒にどのような手立てをするのかを具体的に考えて取り組んでいます。

① 構造的な板書



② 自力解決の手立てとなるワークシート



自分で考えることができるようワークシートを工夫します。

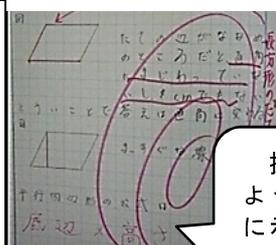
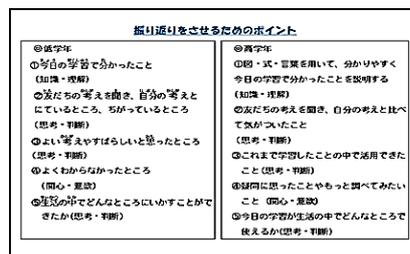
③ 個に応じたヒントカード



1時間の思考の流れが明確になり、考えを深めたり、振り返ったりする有効な手立てとなります。

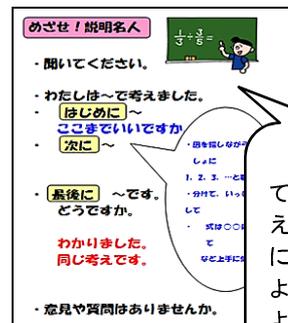
つまずきを想定してヒントカードを作成します。

⑤ ポイントに沿った振り返り



振り返りとして、何をどのように書けばよいかを具体的に示します。児童生徒の振り返りは丁寧に評価します。

④ 論理的な説明



話型を示して、自分の考えをどのように表現すればよいか分かるようにしています。

ノート指導の取組

ノート指導は、児童生徒に考えを整理させたり、自己の理解が不十分な点を意識させたり、考え方や解き方の基本型をしっかりと定着させたりする上で有効な手段となります。指定校においては、創意工夫した様々なノート指導の取組が行われています。

この指定校では、全教職員で、ノート指導の重点取組を定め、ノート指導を通じて学力の定着に取り組んでいます。また、授業ノートを活用し家庭学習の充実につながるようにしています。

重点取組

【重点取組①】 振り返りは時間を取って（3分）、2～3行で書かせる。

- ・内容を充実させる。
(本時のめあてに対応させる、今日何を学んだか、学び方は分かったか)
- ・キーワードを使って書かせる。

【重点項目②】 自分の考えでメモを取らせる。

- ・自分で考えて書かせる。(大切なこと、関心のあること、語句の説明など)
- ・自分の言葉で書かせる。

【重点項目③】 よいノートを掲示する。

- ・生徒によりよいノートとはどのようなものなのかを示す。
- ・指導者は、ノートに何を書かせたいのかをはっきりもっておく。

学力の定着を図るノート

(重点項目①及び家庭学習の充実に関する取組)

授業ノート

ノートの左ページは授業で、右ページは家庭学習で使用します。

10月21日

方程式を利用して問題を解くことが出来る(お金)

例) 1個90円のお茶と1個140円のりんごを合わせて715個買いました。そのときの代金の合計は1800円でした。
りんごは、それぞれ何個買いましたか。

りんごの代金	お茶の代金	合計の代金
1個90円	1個140円	
個数(個)	文	8-X
代金(円)	90X	140(8-X)

求めた数量をX
りんごをX個とする。

方程式をたてる

$$90X + 140(8-X) = 1800$$

$$90X + 1120 - 140X = 1800$$

$$-50X = -300$$

$$X = 6$$

りんごは6個
お茶は2個

お茶の代金 + りんごの代金 = 合計の代金

求めた数量をX
お茶をX本とする。

方程式をたてる

分かります。1と3は表に1つ表す

お茶	りんご	合計
1個120円	1個140円	
個数(個)	文	8-X
代金(円)	120X	140(8-X)

求めた数量をX
りんごをX個とする。

方程式をたてる

$$120X + 140(8-X) = 1020$$

$$120X + 1120 - 140X = 1020$$

$$-20X = -100$$

$$X = 5$$

りんごは5個
お茶は3個

授業のめあてと振り返り

振り返り

方程式を利用して問題を解けた。昨日学習したときはまだよく分かっていなかったが、今日は、お茶とりんごの個数が分かった。

予習

りんごをX個とする。

方程式をたてる

$$0.08X - 0.06 = 0.1X - 0.15$$

$$(0.08X - 0.06) \times 100 = (0.1X - 0.15) \times 100$$

$$8X - 6 = 10X - 15$$

自学自習ノート

復習

今日の授業の復習

りんごの個数をXとする。

方程式をたてる

$$8X - 10X = -15 + 6$$

$$-2X = -9$$

$$X = 4.5$$

りんごは4.5個
お茶は3.5個

1本500円のお茶と1本300円のりんごを合わせて7個買いました。そのときの代金の合計は2900円でした。
りんごは、それぞれ何個買いましたか。

りんごの代金	お茶の代金	合計の代金
1個300円	1本500円	
個数(個)	文	7-X
代金(円)	300X	500(7-X)

求めた数量をX
りんごをX個とする。

方程式をたてる

$$300X + 500(7-X) = 2900$$

$$300X + 3500 - 500X = 2900$$

$$-200X = -600$$

$$X = 3$$

りんごは3個
お茶は4個

予習

りんごをX個とする。

方程式をたてる

$$500X + 300(7-X) = 2900$$

$$500X + 2100 - 300X = 2900$$

$$200X = 800$$

$$X = 4$$

りんごは4個
お茶は3個

